

Press Release 2022.12.13

## 東京オペラシティ アートギャラリー 2023 年度の展覧会情報

4月15日 [土] - 6月18日 [日] \*57日間

### 今井俊介 スカートと風景 Shunsuke Imai: Skirt and Scene

同時開催：収蔵品展 076 寺田コレクション ハイライト (前期)、project N 90 山口由葉

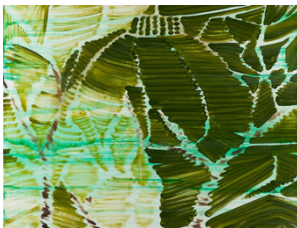


鮮やかなストライプが印象的な絵画シリーズを手がける今井俊介 (1978-) は、具象と抽象、平面と立体、アートとデザインという境界を軽やかに行き来しながら、表現の探究を続けてきました。独自のポップな色彩感覚で、波や旗のようにも見えるイメージを表した絵画シリーズは、ある時ふと何気なく目にした知人の揺れるスカートの模様や、量販店に積み上げられたファストファッションの色彩に強く心を打たれた体験が原点となっています。単純な色と形の組み合わせによる模様をランダムに配置し、それらが歪んだり波打ったりすることで生まれる形態をキャンバスに描き出す今井の制作は、絵画の基本要素である色や形、平面性への考察に基づいており、今井は絵画の根本的な意味やその可能性を問い続けています。

視覚情報が溢れる現代社会を生きる私たちが、今井が生み出す色と形の新鮮なリズムを通して、身体的な感覚をひらく機会となることでしょう。

担当：瀧上華

《untitled》2017 個人蔵



### project N 90 山口由葉 Yamaguchi Yuiha

1992 年生まれ

主な個展 2021 四角い宇宙 (TAKU SOMETANI GALLERY 東京)

主なグループ展 2019 CAF 賞 2019 入選作品展覧会 (代官山ヒルサイドフォーラム 東京)

2020 アートアワードトーキョー丸ノ内 2020 (行幸地下ギャラリー 東京)

担当：野村しのぶ

《ガスドーム》2021

7月6日 [木] - 9月24日 [日] \*69日間

### 野又 穫 (タイトル未定) Nomata Minoru (title to be decided)

同時開催：収蔵品展 076 寺田コレクション ハイライト (後期)、project N 91 小林紗織



《境界 10》1992 撮影：早川宏一

1955年東京生まれ、東京藝術大学でデザインを修めた野又穫。目の前に広がる見知らぬ風景に、不思議な、しかしどこか懐かしい構築物がそびえ立つ。野又の絵画は、架空の光景と一言で片付けることのできない、現実と地続きにある非現実とでもいうべき独特の世界が特徴です。当館コレクションの寄贈者・寺田小太郎氏は野又の作品をこよなく愛し、1980年代から毎年収集を続け、代表作40点あまりが収蔵される最大の収蔵館となりました。近年急速に海外での評価が高まり、野又の活躍の舞台は世界へと広がっています。本展では、当館コレクションはもとより、初期から最新作まで、野又穫の全貌を豊かな空間構成で展示する機会とします。

一人のコレクターの眼から始まった作家と美術館の長年の関係、そして世界へ。点が線で結ばれて星座がつくられるように、いくつかの幸運な出来事によって編まれた物語ともいうべき展覧会です。

担当：野村しのぶ



### project N 91 小林紗織 Kobayashi Saori

1988 年生まれ

主な個展 2017 YUMENOSHIMA (Earth+gallery 東京)

2020 TRIP (手と花 東京)

主なグループ展 2021 エマージング・アーティスト展 (銀座蔦屋書店 GINZA ATRIUM 東京)

語りの複数性 (渋谷区公園通りギャラリー 東京)

担当：瀧上華

《私の中の音の眺め》2021 撮影：うつゆみこ

10月13日 [金] - 12月24日 [日] \*63日間

石川真生展 (タイトル未定) Ishikawa Mao (title to be decided)

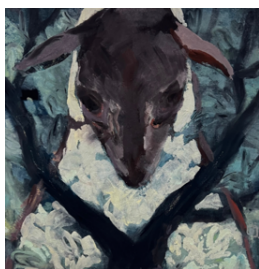
同時開催：収蔵品展 077 ひとの顔、project N 92 土井沙織



沖縄を拠点としながら国内外で広く紹介され、精力的な制作活動続ける石川真生（1953-）の生涯にわたる作品を展示し、制作の実像に迫る、本格的な個展を開催します。沖縄をめぐる人物を中心に、人々に密着した作品を制作し、被写体となる人々に耳を傾け、立場を越えて取材することで引きだされるリアルな人間像は、沖縄の現実を生々しい切り口で暴き出しています。その時々の人間との出会いをきっかけに、立場を越えて写真を撮り続けているスタイルは、早くから確立されてきました。〈アカバナー〉など既発表の代表作のほか、作家蔵のヴィンテージ・プリントを公開します。いまなお新たな制作に向けて取材を続けている石川の、総数約200余点の写真を展示することで、作家が築き上げてきた独自のまなざしを紹介いたします。

担当：天野太郎、瀧上華

《仲田幸子（昭和8年生）劇団でいご座座長。三枚目が当たり役。》「沖縄芝居—仲田幸子—行物語」1977-91年／



### project N 92 土井沙織 Doi Saori

主な個展 2017 されど美しき日々（蔵丘画廊 京都）  
2022 魔女見習いの夜（ARTDYNE 東京）  
主なグループ展 2021 META（神奈川県民ホールギャラリー 神奈川）  
FACE2021（SOMPO 美術館 東京）

担当：福士理

《眠りの前に》2022

2024年1月17日 [水] - 3月24日 [日] \*58日間

ガラスの器と静物画 山野アンダーソン陽子と18人の画家

Glass Tableware in Still Life: Yoko Andersson Yamano and 18 painters

同時開催：収蔵品展 078 静物画の世界、project N 93 宮林妃奈子



三部正博《伊庭靖子が描いた静物画〈untitled 2021-15〉》2021

日本とスウェーデンのアーティストによるガラスの器と静物画、写真からなる展覧会。2018年、スウェーデン在住のガラス作家・山野アンダーソン陽子の発案で、山野が制作したガラスの器を18人のアーティストが静物画に描くというプロジェクトが始まりました。古くから身近なガラスを媒介に、山野と多様な文化的背景をもつアーティストたちは、言葉とイメージを通じた対話を経て作品を制作しました。ガラスの器と静物画、写真家の三部正博が撮り下ろした写真などで構成し、空間全体でアーティストたちの物語をつむぐような展覧会です。

担当：福島直

参加作家：山野アンダーソン陽子、石田淳一、伊庭靖子、小笠原美環、木村彩子、クサナギシンペイ、小林且典、田幡浩一、八重樫ゆい、アンナ・ビヤルゲル、アンナ・カムネー、イルヴァ・カールグレン、イエンス・フェング、カール・ハムウド、CM・ルンドベリ、ニクラス・ホルムグレン、マリア・ノルディン、レベッカ・トレンス、三部正博ほか



《Hair Roll》2020

### project N 93 宮林妃奈子 Miyabayashi Hinako

1997年生まれ  
主なグループ展

2018 Future Artists Tokyo スイッチルーム（東京国際フォーラム 東京）  
2021 Young Artists' Show 2021 (GalleryA8T 宮城）  
アートアワードトーキョー丸の内 2021（丸ビル3階回廊 東京）  
Three (biscuit gallery 東京）  
2022 コミテコルベールアワード 2022—The beauty of imperfection—展  
（東京藝術大学美術館 東京）

担当：福士理

■お問い合わせ 東京オペラシティ アートギャラリー 【広報】市川靖子、吉田明子  
Tel：03-5353-0756 / Fax：03-5353-0776 / Email：ag-press@toccf.com

オペラシティ アートギャラリー | 〒163-1403 東京都新宿区西新宿 3-20-2 tel: 03-5353-0756 fax: 03-5353-0776 e-mail: ag-press@toccf.com <https://www.operacity.jp/ag/>